

らいふ通信 ぶちらいふ



講師
(株)川原経営総合
センター シニア
コンサルタント
田中律子先生
全国各地の医療・
介護施設で研修や
経営コンサルをさ
れています。



リフシア松林（小規模多機能サービス）
に所属する小島雄也さん（27歳）は専

リフシアでは、事業所のスタッフが集まり定期的に勉強会や研修を行っています。介護は体力も必要ですが感情を伴う仕事なので、しっかりと考え方を持ち、やりがいを育むことがとても大切です。研修に参加している若きスタッフに、仕事の魅力をインタビューしました。

励みになります。将来は、介護のリ

ダにもチャレンジしてみたい！」
と抱負を語ってくれました。

小島さんと同じ職場で働く守

屋亮祐さん（26歳）は、大学

卒業後リフオーム会社に就職、

その後1年くらいフリーラン

シングで働いていました。

資格や経験

はないけれど、福祉関係で働

くお母さんや、友人から性格

的に向いていると言われたこと

がきっかけで、昨年3月から働

き始めました。「今までと違う

ので戸惑いもあつたけれど、人

と接するのは楽しい。特に認知症の人

と身近に関わったのが初めてで、だから

毎日が新しい発見の連続です。最近皆

さんの変化にも気づけるようになつ

てきたのも嬉しい！」と素直に感

想を話してくれました。働きなが

ら介護の初任者研修を受講し、現在

は正社員として働いています。

大変！だからこそ楽しいんです！研修では自分にはない意見が聞けるし、沢山大切な人の関わりを大切にする仕事は思つたきっかけです。

「人と人の関わりを大切にする仕事は大変！だからこそ楽しいんです！研修では自分にはない意見が聞けるし、沢山近隣の祖母を介護したことなどがこの仕事をやつてみようと思つたきっかけです。

守屋亮祐さん

（26歳）

小島雄也さん

（27歳）

lifsea
株式会社リフシア

HP / <http://lifsea.co.jp>
らいふ日記（スタッフブログ）
green.ap.teacup.com/lifeikago

2015秋Vol.41

リフシアを支える若い力。



研修は外部

講師を招き、

今年5月から翌1月まで同じメンバ

ー15人で「自立支援を支えるために」

というテーマで開催しています。（厚生

労働省のキャリア形成助成金事業

テーマに沿って全8回、経験の浅いス

タッフも交じり講義やグループワーク

に参加しています。「あなたの街の人

口が減るとどうなるでしょうか？」「そ

の時高齢者の〇〇さんの生活は今ど

のようになつてくると思いますか？」

「自立とはどのような状態だと思いますか？」と大きなテーマから身近な介

護現場に及ぶ内容を話し合います。

介護業界は深刻な人材不足ですが、

このように頑張っているスタッフが

現場を支えている魅力

あります。（編）

守屋亮祐さん

（26歳）

小島雄也さん

（27歳）

小島雄也さん

特集記事

サービス付き高齢者向け住宅
リフシア
浜之郷の暮らし



↑リフシア浜之郷は鶴嶺神社の参道に面しているので、古くから伝わる“浜降り祭”“お神輿”がすぐ傍で見物できる。

→音声ガイドの使い方を聞きながらまち歩きにチャレンジ中（茅ヶ崎市西久保）



里山公園にピクニック



ハッピーらいふカレッジ 卓球やゲームを通じて心も体もリフレッシュ。

世界一の長寿国日本は核家族化が進み、高齢者の単身世帯や夫婦世帯が増えています。高齢になって住み替える先に、国土交通省・厚生労働省が所轄する「サービス付き高齢者向け住宅」があります。全国に5,734棟185,512戸、神奈川県は248棟

9,365戸(平成27年9月時点)あり、関心がたかまっています。運営する事業所によって建物やサービスの考え方方が違う、プライバシーはどうなっているの?住んでいる人たちの生活は?という声をよく耳にします。特集では、リフシア浜之郷の暮らしを紹介します。



投稿

まち景まち観フォーラム・茅ヶ崎
副代表 西村正雄さん



まち歩きイベントに参加したことが縁でまち景に参加の西村さん。お孫さんの樹(いつき)君と一緒に。

リフシア浜之郷さんと、音声ガイドを使った西久保まち歩きに参加させてもらいました。

音声ガイドは、GPSの位置情報を利用して、あらかじめ登録されたスポットに近づくと、専用端末から自動で説明の音声が流れるシステムです。参加者の皆さまの「楽しかったよ、ありがとうね」の声にお供した甲斐がありました。

高齢者に向けた健康支援ツールとしての音声ガイドだけではなく、住み慣れた地域での暮らしを続ける、ふれあいの場づくりへの新たな活用分野の広がりを感じました。そして、老後の生活や生きがいなど、大変貴重な見聞を得ることができました。

引き続き、リフシア浜之郷さんではレクリエーション企画の一環として、音声ガイドを利用したまち歩きが計画されています。これからも健康づくりの一助として音声ガイドを利用して、茅ヶ崎市内の旧跡や見どころを訪ねながら、まちの新しい魅力を見つけていただければ幸甚です。



趣味のカメラの腕を生かしてまち景では撮影も担当



ミニコンビニやごみの分別コーナーを設置したら、いつもよりお部屋を出る回数が増えました。知り合いもでき、新しい生活に笑顔も増えました。



夏カフェの屋台で一杯



共有部分に1か月の行事や地域の催しが掲示されていて、10月は、茅ヶ崎市の市民団体で作る「まち景プロジェクト」のまち歩きの他に「味覚ツアーア」が企画されています。また、リフシア浜之郷の送迎車を利用して、地区社会福祉協議会開催の「サロンつるみね」に出かける人たちもいます。また、理学療法士の原田さん（リフシア健康呼ばう事業の担当）が講師

をする「ハッピーらいふカレッジ」が開催され、それぞれ好みのプログラムに参加できます。

「今まで出来ていたことを何でもこちらがしてしまってはなく、続けていただくお手伝いが私たちの仕事です」と、一人でも食事を運べるようなワゴンを作ったり、各自でごみが出せる分別用のごみ箱を1・2階に設置しました。最近は、ひとりでお買い物に行けない人も利用できるミニコンビニを開設しました。

ひとり一人自分の生活スタイルに合わせながら、困ったときには相談や話し相手がいて、時にはお部屋でゆっくり過ごせる新しい住まい方に興味を持たれた方は、どうぞ見学にいらしてください。スタッフも住民の皆さんもきっと暖かく迎えてくれますよ。



成田所長(左)と住民の森窪チエさん

オープンから1年6か月になるリフシア浜之郷には、現在男性9人女性30人が住んでいます。お元気な方も要介護認定を受けている方もお住まいです。平日の朝



は少しにぎやかで、それぞれ契約しているデイサービスのお迎えや、病院に行く人、お散歩を楽しむ人、ゆっくり食堂で食事を済ませた人たちがフロントの前を行きかいります。

だき、とてもやりがいを感じます」と話すのは今年4月に就任した成田享子所長。

「自治会の回覧

板は、住民の皆さんがあなたに回してくださいます」「ご家族や地域の方がよく来て下さるのもこの特色で、私たちスタッフには顔の見える関係ができるので、声をかけていた

だき、とてもやりがいを感じます」と話すのは今年4月に就任した成田享子所長。

リフシア浜之郷の浴衣美人コンテストで優勝した佐渡山正子さん100歳

地域に溶け込む、自分らしい生活。

